



里見八犬傳

第三輯

卷三



709
13



門 13
 號 709
 卷 13



明治三六年
 十月九日
 購

南總里見八犬傳第三輯卷之三

東都 曲亭主人編次

第廿五回

再説 暮六ハ水小溺れ一やゆと飽や信乃ハ抱させ且一と眼を
 固らむを抗足を動かしやゆと日れはかり一如扶起されと自脈を診り
 かくて日れハ再び生じり危り一と傷ある柱小携と立あられ信乃ハその
 本復の速るを歎びく俱小河辺の小屋をぬれば土太郎ハ左母二郎を
 乗せし船をよるよる上をり當下信乃ハ邊一と單衣を被て刀を腰小
 さら程又左母二郎ハ暮六がと携し船は乗せその恙あると祝するに
 或ハ水中の動作を問或ハその苦惱を告て果と笑声高くたのむとて

八犬傳三輯卷之三

しく岸を離るるめり。前まへ行ゆき心こころは懲おそりとも。再び細こをちりてかく。躬かみく
 前面まへ不ふ著ちやくさせく。獲との雜ざ魚ぎよを魚い番ばんは移うつさせ。たの不ふ餘あまれるを。此この條じょうの
 枝えだ不ふ貫くわんえあぐり。これを蒼あせ竹たけの真ま中ちゆう不ふ括くわく提てい信しん乃のと左さ母ぼ二に郎らうと。それ本ほん
 末すえを相あ携せうり。暮ゆふ六む六む件けんの二に人にんを先まは拉ひり。腰こし巾きん著ちやくを搔か撈ら々々多おほ少くハ
 ちとど土ど太た郎らうは紙し捻ねんを取とり。今いま宵よの辛しん苦く錢せんあづ。この土ど太た郎らうハ
 何なに船ふねの傭やう撰せんあぐり。生活かうごはまあれど。一ひと知ち不ふ住じゆうの癖くせ者ものあれハ豫よ々々暮ゆふ
 六む不ふ相あ譚たんれ。信しん乃のを亡なんといつらんか。この西にし人にんハ一ひと町まちあま。先ま不ふ
 拉ひり。信しん乃のホが。折せとん。何なにるや。密ひそ語ごめり。又また先まち。西にし人にんを
 遙とほ不ふ後ご方かたを足あり。後ごりも。待まちり。暮ゆふ六む六む船ふねく走はり。来きり
 うち。連つれ拉らり。家いへ路ぢは。十七しち日にちの月つきハ出でり。戦いくさぐ。青あお田の不ふ風かぜ渡わたる。
 夜よ行ゆきハ殊ことは涼すずく。うち相あ譚たん々々。宿しゆく不ふ暮ゆふ六む六む信しん乃のホは。い。あ。り。

今いま宵よの怪け我がハ生せい涯げいは復またあ。不ふ覺かくあり。龜かめ條じょうホ。あ。り。ま。あ。り。
 い。ち。で。も。い。ひ。出でり。漁りく獵りやうを林はやしに。あ。り。ん。努こ秘ひま。と。真ま一ひと中ちゆう不ふ
 口くちを鉗くわんめ。既すでち。庚かう申しん塚づかの。ほ。と。ま。迫せまり。宿しゆく不ふ一ひと祇ぎの物ものを背せ負おて。
 前まへ面めんより。牙がの。め。あ。り。けり。引ひ提ていり。挑てう灯とうハ。紛まへ。く。ゆ。あ。り。ぬ。背せ負おり。て。
 と。ん。け。ま。暮ゆふ六む六む中ちゆう不ふ。あ。り。ん。と。や。か。く。遅おそかり。と。回まわり。背せ負おり。
 小こ腰こしを折ひめ。割わ籠かごの。准てい備びせ。り。故ゆゑは。時ときを。殺ころす。とい。ひ。せ。せ。と。
 又またを眼まなこを。睜あぐ。噫あ詫わや。白しろ物もの。が。出でり。炊くわい妾めかけふ。云いふ。と。い。ひ。さ。不ふ例れいの
 籠かご耳みみ脱だつせ。今いま宵よの。何なにゆ。せん。と。陽やう腹はらを。く。皆みな共とも侶りよふ
 里さと不ふ還かへる。ま。時ときハ。過すり。左さ母ぼ二に郎らうハ。暮ゆふ六む六むを。そ。が。門かど邊へまで。送おくり
 つ。夜よの。深ふかさ。れ。は。と。く。裡うち面めんより。入いり。信しん乃のも。叮てい嚙しやく不ふ別べつを。生せい口くち羽うの。啓か
 行ゆきを。祝いわす。あ。の。が。宿しゆく呀やへ。か。り。ま。ぬ。か。く。暮ゆふ六む六むハ。奴ぬ婢ひ一ひと兩りゆう人にん呼よ起おさせ。く。

あり著る物もれ巻成巻く息を吹死引ちちりたる盃盤をとり納
 め共侶小臥房小入る程ゆるく射の声ぞ高かりける。さる後小信乃臥
 房小入りかど時を待たぬ。ゆるく久後を思ふ。おれを誰ハとあひご父母の墳墓小今ぞ遠離る里の名残のいと惜死ころハ
 ままが真砂路の濱路ハ臥房を脱歩く。蝸ぬ恨をいさぐりも納戸の軒ハ二
 親の目えぬ程よとわのせられく逢ぬかふさるる。慄の関の戸乃音
 たてさそと國踏む膝ハ戦へて定めあは浮世とぞハ形も悲しく。つら
 恨し郎の枕よ近づけ信乃ハあつ人ありとえく。刀を引よせ岸破と起
 誰やと問ハ音もせを。原來癡者ござんあ。こぞ寐息を穴覗しく。刺ま
 殺さん為小軟と疑ハいよ由おせむ。行燈の火光さ。向けく。熟視まぶ
 濱路あり。端まへは進まむ。蝸の後方小伏沈と声ハまよと。哽咽る涙ハ

外を志のふ搦茶れ苦一と唧めり。強敵も懼れざる。壮客もあつらち。驍も骨と
 結めく。蝸を出釣緒を解く。臥簞を片よせ。濱路ハ何木の所要ありて。更
 闌さる小臥もせむ。あへ迷ひ来多ひ。瓜田のハ音を容む。李下小冠を正
 こまどといふ諺ある。成るやと外も恨し。け小涙を拂く。頭を奉何し。小来
 つと外と志く。いつらまむ。小形なれ妹妹ハ名のと糾纏の化結ある中あれ。か
 ち宣ふも。を理ち。後と一旦親の口づら。詩しゆひ。夫婦小あは。日來ハ
 とまれか。もわれ今。賈限りの別れを。告る。せあふとも。おん力の恥あ。たる
 ちがれ。小生く。ゆきま。で。あ。自。小。只。下。言。の。捨。言。葉。か。け。ぬ。ハ。情。あ。り。公。つ。よ
 一と怨心と。ま。信。乃。ハ。心。を。歎。息。一。人。木。石。小。あ。は。さ。れ。ハ。有。懸。小。情。と。あ。る。と
 々も。嫌。忌。の。中。小。力。を。措。故。小。口。を。閑。れ。く。告。る。よ。う。あ。り。おん力。が。誠。ハ。こ。ま。ど
 志。し。り。こ。が。胸。中。を。只。おん力。あ。る。と。ん。詩。我。ハ。僅。小。十。六。里。三。四。日。火。往。還。を。か

ことごとく百分一おん刃小誠やうやう六如此この故あり。かたりおん日八定め
 かく。潜びく物よ。共侶ゆと宣う。夫あり妻あり。誰か密夫とぞ識るべ死
 ねる。強面一と多ふ程離れくた女子の誠分袂より棄ててあぐれく
 死んより。おん刃刃又かけきたる百年の後成冥土ゆく。俟たんとく口説く。
 いとも切なる恨のきづく。泣音憚り千行の涙ハ袖に湛たり。信乃ハその声外
 ぬや洩ん心苦しとくええ。岩井の水成むとびくけり。縁しをこふ釋よりかけ
 れハ慨然とく嗟嘆し。又死さる。成勝ふ措えや。濱路おん刃が恨ハせら
 とく。理りあふばとひふし。あけきど。いふせん。この度の起行ハ伯母ハ夫
 婦の指揮ふよれり。實ハ吾侪を遠離く。おん刃小婿を招んる。妻あり
 これハおん刃の爲。夫あり。夫小あり。そのひく。二親の底音成。猪一
 多る。おん刃。今さ。情は攀れく。おん刃を誘引出し。誰か誰か淫奔と

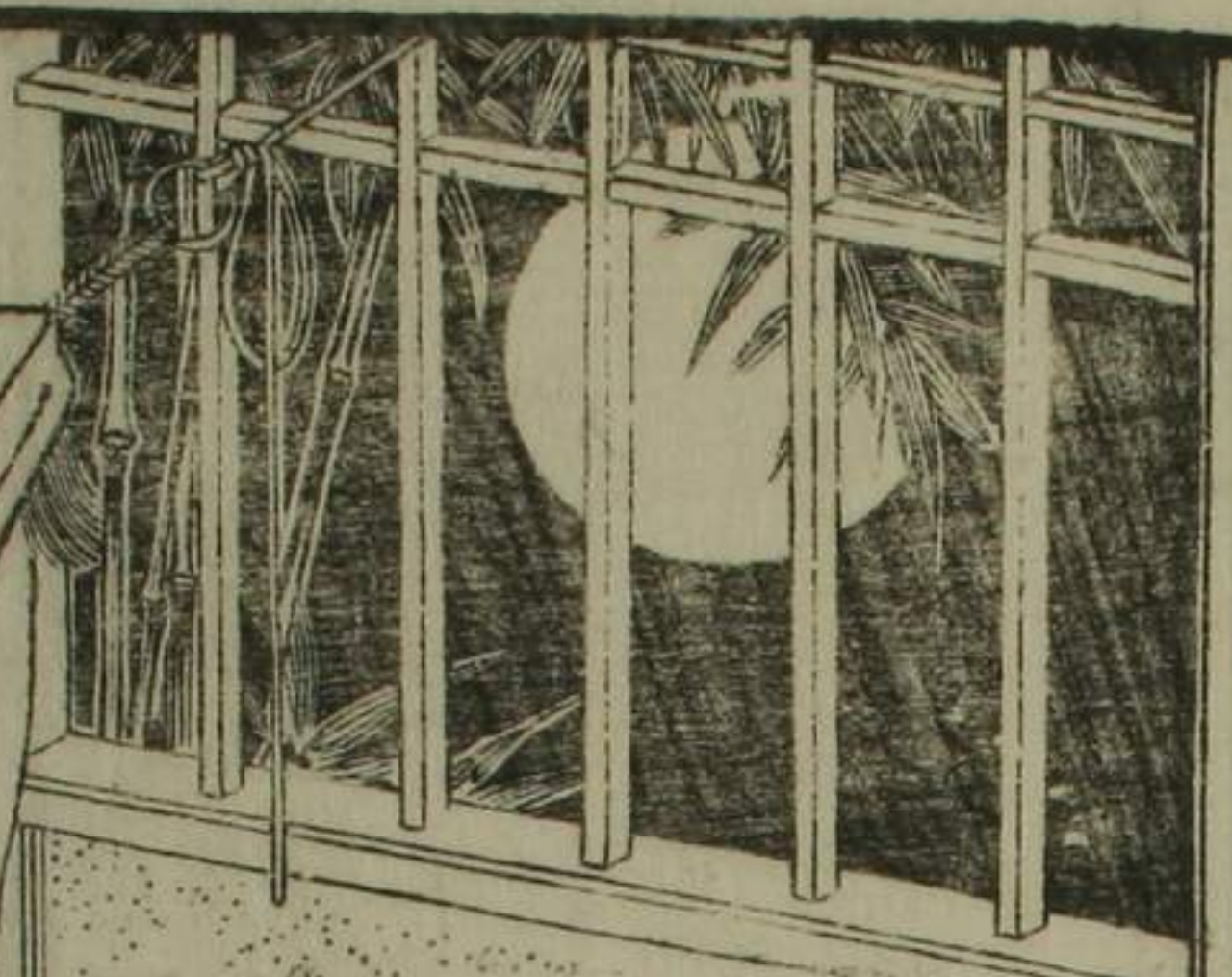
いらざる。死苗り。かたを苗。便是。かみ。去。かた。成。出。く。亦。是
 おん刃が。あふ。む。や。縦。且。く。別。る。と。も。込。小。あ。ろ。亦。多。ま。ハ。遂。小。全。聚。る。と。死
 あん親連の目えぬ。間。は。と。く。臥。房。又。か。り。あ。り。亦。心。け。ん。あ。ん。刃。が
 親を。考へ。存亡を。考へ。便。著。ゆ。い。で。来。ん。と。去。ぬ。と。論。して。も。立。も。あ。が
 ら。と。頭。を。掉。し。濡。ぬ。前。し。を。露。を。と。厭。へ。二。親。の。い。さ。と。く。く。あ。へ。来。り。る。を
 外。口。め。あ。ひ。と。く。由。ま。う。る。信。乃。只。共。侶。ゆ。と。宣。ハ。ま。り。おん刃の。心。成。成。信。乃
 で。ハ。生。く。國。の。外。又。出。で。殺。し。く。と。と。衝。詰。し。か。り。た。女。子。の。魂。ゆ。と。小。居。り。て
 動。き。ハ。信。乃。ハ。ほ。ろ。く。困。り。果。く。潜。ひ。あ。が。ら。の。声。を。激。し。と。く。亦。亦。死
 命。あ。ひ。時。ゆ。あ。ん。死。る。か。人。の。誠。く。と。ま。く。伯。母。と。伯。母。夫。の。許。し。を。得
 ころ。出。世。の。首。途。妨。せ。ば。か。妻。よ。あ。を。と。過。世。の。讐。歎。と。寤。ま。し。濱。路。ハ。の。と
 泣。沈。く。あ。ろ。の。願。ひ。を。遂。ん。と。ま。ま。あ。ん。刃。の。仇。又。あ。る。よ。を。論。し。あ。ん。刃。も

落家
かげとさう
まを惜み
勢のぬ乃
まをぬさとの
あつ美もうね



額藏

たの路



信乃



あしと小中かゆも形あれたが身むらりのあまふひ絶く留り侍らんこふ
 道中恙なく折る烈しれ日やひせき許我へ系ましく名を由揚家を與
 冬龍北山下風吹くころ風の便小まきとくつ波の山のこまふ
 恙もあて君まはとゆふのこゆく侍りてん今より弱く玉の緒のこまふ
 これをこの世のころは憑むらさこふぬ冥土のこ二世の契アふ必よぬあろ
 亦あせまふあ墓あれたるを木綿袴掛てぞ契願言ハ怜悧又えても
 恍惚子たる未通女あろの哀れる信乃も有撃ふうち芝折れ慰め
 うみと点流のこ又いみちのちるけり折る告る八声の鶏小信乃ハ心を
 かくの間ある二親めがまのあふたんとくといそがくまふ濱路ハかうを
 まわり天由明ハ孤又啖らん腐鶏の未明又鳴く伏を遣つそれハ恋せし
 草まらけ是ハ旅中妹妹のこま鶏も鳴く天由明ハ曉る人の目も

覚恨の鶏の音やよ小逢坂のあふ宵ハあふゆりさぬ因ハこふ人よ在
 明の月ぞ果敢あれた口実々出んとはふ外面小啖く障子と障子ハと
 うち敲た鶏が謡くゆふいふまご覚あふやとゆ起を声ハ額蔵あり信
 のハゆれく遠く成はは額蔵ハ奄留のあふ退れき疾この隙ふと出
 遣る濱路ハ臉泣腫一團あふこふ人よと涙は霞む挾山形紙張の
 壁小身をよせくあのが臥房小泣小中現悲しれハ死別より生別小あふれ
 ろ呼甲あふかこの未通女いまご鴛鴦の余衣を思ねを連理乃枕を
 並へましくその情百年の夫婦又勝るあふ信乃ハ情小引ましくその公成
 動まきとくそれ情小後入る男女別あふ越成ゆり夫色界の迷津ハ賢不
 肖を差別ハ江湖詩書の少年輩下こびこの岸小臨く潮さるをあふの
 少一然るまを今この美夫節婦あり濱路ハ恋慕を樂ましく淫せんと小

あふと信乃が嗟嘆ハ悲く傷を濱路が情ハ有不得べ。信乃が如死ハいよ
まれの重くまよそあたる あつきのくさず
 いよ稀に同話休題との曉天額藏ハいよあか起出火を打水を汲炊
あはれ あはれ あはれ
 死るアまき信乃は飯を勧め已由たうぐ共侶不行装行程小奴婢ホ大
おれ おれ おれ
 へ起さう。かくて信乃額藏ハ支度形の如く整へ。あふ夫婦が学んまふ
おれ おれ おれ
 明六の鐘ハあゆむも夫婦ハ宿酒醒むやありけん。いよ臥房を出さうけ
あま あま あま
 信乃ハこの朝涼うと心いそだのせもれど一言半句も辞せんと出てゆん
あま あま あま
 へはかくそ臥房ホ立上るも。おん目を覚めたりや只今度足仕まふおん
あま あま あま
 暇ををさうと。信乃もい覚めたりやと声高申ふ。あせせせ。墓六ハ夢
あま あま あま
 ころ小ゆた後くと心小けり。信乃ハ再び声あまを。伯母ハいよ。あせ
あま あま あま
 むや。信乃が度足の暇乞。あまのいハと。あせせせ。龜條渡物。声さる
あま あま あま
 ゆた後くと心小けり。信乃ハ心を果る。外面小退く。小濱路ハ有繫小泣

顔を人小んれんとのを。くまゆほ。細申小障子を。用目送り。辞ハ
あま あま あま
 絶く酸鼻む妻小別。旅衣今たち初る。信乃額藏を送る。奴婢ホ忙忙。
あま あま あま
 背ぬり。共門小出。衆皆名残を惜め。祝く。霎時散動。危さる。後小
あま あま あま
 墓六龜條ハ昨夜深。熟酔。寝小就。る。朝日高く昇。比中
あま あま あま
 へ。小起。信乃ハと。回ハ云云。明六の鐘。共。啓。あせせせ。
あま あま あま
 奴婢ホが告。小果。果。夫婦目と目をあり。ぬる。小けり。と。あせせせ。
あま あま あま
 色なく。舌うち。さあ。ん。あせせせ。信乃も
あま あま あま
 亦不敬。苟且。起行。小告。別。せぬ。と。あせせせ。高。声。合。く。敦。圍。ハ。不
あま あま あま
 彼人。臥房。小立。上。と。云。と。告。あせせせ。ゆた後くと心小けり。と。あせせせ。原。来。寐。言。く
あま あま あま
 と。あせせせ。一。入。が。堪。ぬ。て。衆。皆。咄。と。笑。小。あせせせ。夫。婦。ハ。い。よ。腹。立。く。此
あま あま あま
 奴。何。が。あせせせ。信乃。が。あせせせ。取。持。自。了。を。あせせせ。あせせせ。

遍掃出。門へ塩花揮ふ。やと雷著如。坂東訛。哮ま。青嵐鳴。子の音。小
群雀。驚く。如。命。避。う。そ。中。小。濱。路。の。こ。の。日。も。病。も。臥。房。を。出。て。心。持。死。ぬ
べ。く。あ。る。も。と。く。著。と。る。と。あ。る。と。く。二。親。ハ。ま。つ。ま。が。ふ。養。老。女。見。と。死。一

て。ハ。や。ぶ。く。見。あ。る。宝。の。山。出。世。の。椽。中。絶。人。鍼。よ。藥。餌。と。謀。こ。く。これ。ハ。女。見。ハ
使。る。愛。ま。あ。わ。ぐ。勢。と。利。小。就。ま。ぐ。の。ま。せ。祈。禱。親。の。慾。了。を。無。慙。る。時。こ
文明。十年。六月。十八。日。の。朝。ま。た。小。犬。塚。信。乃。ハ。年。来。の。志。願。か。う。な。く。時。到。り
額。藏。を。お。く。下。総。ち。る。許。我。の。所。所。へ。赴。ん。と。も。こ。の。年。信。乃。ハ。十。九。歳。額。藏。ハ
廿。歳。ま。ぐ。抑。こ。の。兩。雄。ハ。既。小。同。盟。合。體。と。義。を。結。び。誓。言。を。立。艱。難。與。一
相。救。ひ。苦。樂。を。等。しく。せん。と。の。ま。ろ。ハ。信。義。の。郷。あり。身。ハ。亦。汚。吏。の。家。小
在。且。人。目。を。ま。る。と。睦。か。を。額。藏。ハ。信。乃。を。譏。り。信。乃。ハ。額。藏。を。屑。と。も。せ。ば
この。故。小。奸。智。小。長。と。る。墓。六。も。孤。疑。ま。れ。龜。條。も。ま。ぐ。額。藏。疑。ハ。を。密

議の席も侍りせし。此度信乃が許我へ。後者小を遣せし。ゆ。た。不。謀。る
る。あ。れ。が。あ。り。か。れ。信。乃。ハ。額。藏。が。資。よ。う。と。く。害。を。脱。を。異。小。難。の。手。を
送。れ。り。こ。の。う。行。ひ。易。死。又。似。く。甚。難。り。假。染。の。所。行。ぶ。も。心。小。あ。ら。ぬ。作。り。只
多。色。小。出。辞。小。洩。く。遂。小。あ。ら。ら。め。ま。る。小。嫌。忌。の。中。小。八。九。年。それ。と。人。小。曉
ら。且。さ。ら。と。久。智。納。の。致。を。呀。る。ま。も。も。その。信。乃。の。義。を。神。明。監。と。天。の。祐。る。小
あ。ら。ら。せ。ば。い。う。う。け。の。小。あ。つ。と。あ。ら。ん。ま。ま。バ。額。藏。ハ。こ。の。年。来。竊。信。乃。が。藏
書。を。借。り。經。籍。史。傳。兵。書。の。類。を。あ。ら。と。れ。と。懐。雨。一。又。あ。ら。と。れ。ハ。草。籠。の。底。小
藏。め。く。草。野。小。出。山。林。小。入。る。小。も。傷。小。人。の。あ。き。折。を。讀。譜。せ。ば。と。い。ふ。と。あ。り。唯
文。事。の。と。あ。ら。と。木。を。伐。る。と。れ。ハ。斧。成。り。く。大。刀。を。ち。を。試。し。草。を。刈。と。れ。ハ
鎌。を。ち。く。長。刀。の。技。を。試。し。或。ハ。業。山。子。の。弓。を。ち。く。射。藝。を。自。ほ。し。或。ハ。技。の
新。駒。ま。ら。ち。跨。く。自。然。小。騎。馬。を。習。は。り。ま。ら。と。ど。も。人。と。是。成。ま。ら。と。但。そ。れ

この故小奸智小長とる墓六も孤疑まれ龜條もまぐ額藏疑ハを密

相救ひ苦樂を等しくせんとのまろハ信義の郷あり身ハ亦汚吏の家小

在且人目をまると睦かを額藏ハ信乃を譏り信乃ハ額藏を屑ともせば

この故小奸智小長とる墓六も孤疑まれ龜條もまぐ額藏疑ハを密

議の席も侍りせし。此度信乃が許我へ。後者小を遣せし。ゆ。た。不。謀。る

る。あ。れ。が。あ。り。か。れ。信。乃。ハ。額。藏。が。資。よ。う。と。く。害。を。脱。を。異。小。難。の。手。を

送。れ。り。こ。の。う。行。ひ。易。死。又。似。く。甚。難。り。假。染。の。所。行。ぶ。も。心。小。あ。ら。ぬ。作。り。只

多。色。小。出。辞。小。洩。く。遂。小。あ。ら。ら。め。ま。る。小。嫌。忌。の。中。小。八。九。年。それ。と。人。小。曉

ら。且。さ。ら。と。久。智。納。の。致。を。呀。る。ま。も。も。その。信。乃。の。義。を。神。明。監。と。天。の。祐。る。小

あ。ら。ら。せ。ば。い。う。う。け。の。小。あ。つ。と。あ。ら。ん。ま。ま。バ。額。藏。ハ。こ。の。年。来。竊。信。乃。が。藏

書。を。借。り。經。籍。史。傳。兵。書。の。類。を。あ。ら。と。れ。と。懐。雨。一。又。あ。ら。と。れ。ハ。草。籠。の。底。小

齊力あつるハ隠さへくもあつる墓六龜條ホハ僅小こも成のこもれりよりて
 此度中途までよく信乃を刺する額藏あるハ叶ハもその腹心を告する
 ちる。あつれども額藏ハいまだこの條の主命を信乃ハ密語は違ふ死か
 而雄ハ先ホ立後よりあり。里を出離んとつる額藏ハいまだ母の
 墳玉ハこのほよりあり。畔ハあり。日と果る旅あると由ありて告んと
 立よるとありとや。と誘引へが信乃ハ實小然なり。某ハまのハ菩提院へ
 詣。親の墓ハハ別を告が。ふか。事のみ。ちんが母の墓を漏
 せり。既ハ義を結び。ちんが親ハ親ハいづくハ詣さる死。さハ
 西人連拉。黎明鴨のころ。比田の畔を右のく。三町未まり進。ハ
 注連引繞。一株の榎樹あり。このほより則額藏ハ母の墓ハ當時旅
 みて身やると。墓六。とせ。棄るが。この田の畔。瘞さる。

け。墓石をよ。建。く。も。あ。か。く。額藏ハ年十可の時より。竊。又
 これを敷く。墓碑を建るの資料を。バ。竟。一。計。を。設。け。形。の。如。く
 用意。有。一。夕。潘。の。榎。一。條。の。注。連。を。の。梢。に。掛。け。り
 ける。次の日。その田を耕さる。これを。敬。身。に。怪。と。彼。小。告。此。小。報。る。小。教。馬
 嘆。せ。る。の。と。ま。く。こ。ハ。全。く。こ。の。樹。ハ。霊。の。あ。る。故。欽。さ。る。と。樹。下。ま。る
 土饅頭亡者。祠堂を。こ。へ。る。奇。特。あ。る。成。ん。ち。捨。る。ふ
 出宗。あ。る。と。せ。よ。か。せ。よ。と。罵。々。田。主。ハ。さ。り。近。鄰。の。莊。客。們。各。此。の。錢。を
 中。と。彼。土。饅。頭。の。頂。小。細。小。る。禿。倉。を。建。立。一。又。毎。年。の。春。秋。ハ。注。連。に
 新。中。と。その榎。を。伐。る。と。あ。る。そ。成。彼。此。ハ。傳。傳。の。詣。る。人。を。た。れ。誰。の。ハ
 ち。この神ハ婦人の諸病を瘥。と。正。ハ。小。語。り。つ。て。禱。る。小。果。と。利
 益。あり。よ。と。こ。の。墳。を。行。婦。塚。と。唱。り。さ。る。か。よ。殘。忍。無。慙。の。墓。六。あ。れ。た。



衆人渴仰の応報にあらずとて或はひらつ崇むるせんとや思ひたる。め先倉へ建る
と死銭を出し、庄客は米一俵宛とせけり。寔は額藏が計る所、一点も
違はざり。母の墳堂を喪ざるの事、遂は田中は畜食を亡塊の飲ひさへ、
推量らざる感あらず。是ハこれ三尺の童子の智恵に成るのみならず、亦孝感
のあつらふ。あつらふ所あるべし。抑この一奇異ハ信乃が八房の梅と同日の
談ゆ。事ハその前年あり。さる紙今をめぐり、小説出せるハ是より後乃
物語。よく額藏が及べざる。題了同話再説信乃ハ行婦の墳の事。
豫と使けし由今ゆ。母の薄命その子の孝感、是ハ不及とあつらふ。
額藏を先よ立ち。共侶は頼をつれ、祈念の中、懐舊の涙を禁めかたしり
ける。かくとあえ、死はあつらふ。西人齊一身を起し。必ひ絶てざる鳥の巢
鴨を左邊小見久と。跡ハ濁さぬ石神井の流は添ふ。西个原田畑を過る

夏の雨小追れ、兼輪の笠をり石濱村は舟をもち、稍うち渡り墨田河その
樹下の涼し、小雲時とくそ柳嶋。下総と人ハ、及遠る許我の里
今宵の宿久らそ死けり。さる宛小信乃額藏ハこの日三四里の路を走り、
栗橋の驛は宿とらん。この如より許我の里へその途四里ハ足ざりける。庄
官が人をと。跟さるるそのや。と豫くハ途まじ。聊も雑談せむ。さるも
あふあつらふ。疑はれとと。幸ゆ、相宿の旅客も。さるも。西人心を安
く。絶く久し。雨談は共ハ長途の疲労をあげ、當下信乃も額藏も。
神宮河の昔の趣。暮六が為体土太郎が。さるも。あちも。告え。額藏
ゆ。小頭を傾け。そハ水は傾托。和君を亡ん。謀る。危う
。驚嘆も。信乃又且く尋思。害心か。のどく。又何ホの故あり。く。
彼人年来懸念せし。室刀の。成る。絶く。と。成ハ許我へ遣る。や。ん。さ。只

傳路を宮六に遺嫁せんぬの飲ぞめ許我へあれしりハハが心放させく
 神宮河を害せんぬ飲その謀成らるるあ小こら虎穴を脱せりといハハ
 額藏は成らる掉す。否それのふあどく。神宮河の漢獵も勸めて許
 我へ起らせし也。孰も和君を殺し。その宝刀を奪ふべく。所領の田園を
 還さるべく。殿上を替ふせんぬ。そ成のふしてあやといふ小昨夕甲夜の留
 守の間小伯母君が借かり。某を閑室に招たよせ。額藏よ。此度汝を後者
 仰る信乃と共に遣をよハハ大事を委んぬんといひく死るるあ。信乃ハ
 吾侪乃任ふしあ也と。あハハ過世の讐敵よとを渠ハ親の横死を恨めて
 己が良人を仇と見ひ折よくハ寝首を掻んとさる小刀を磨と久し。そ成をれる
 のハ吾侪の。然ハハ又定めらるるあ。血が血を洗ふハ一家の恥辱と
 思ひえく。橋はるる。けあまを異小過せしが渠今許我へ起れく。事成ら

己がく身ん。然ハハよく己が良人を怨む害心日来まま。任を不便は
 せさるふあ。祿ど。呀大ハ換。よるま。汝を懸む途。由利を窺ひ。只
 一ト刀小刺殺せよ。死骸をふて。埋め。渠が両刀を奪ひ。竊よ。よ
 吾侪よ。此の路費もあ。げ。それハ汝が得ませよ。よ。の密事を
 果し。よ。せ。の翁よ。勸め。よ。汝を替ふと。よ。全等。困ま
 ち。汝ハ幼稚と。使ひ。熟。小。不。便。吾
 侪。悪。報。人。の。伯。母。を。殺。す。天。の。為。汝。ハ
 主。の。為。忠。義。の。二。字。を。亡。す。ハ。背。め。遣。さん。と。い。ハ。中
 ころ。信。乃。疑。せ。ど。あ。汝。が。外。の。一。大。事。を。任。す。め。の。あ。き。く。
 よ。く。せ。よ。と。口。説。は。其。言。小。利。を。示。し。よ。と。く。浅。ま。し。く。人。と。氣
 色。あ。さ。く。け。あ。ら。ゆ。ぬ。犬。塚。殿。の。恨。あ。る。年。來。の。憤。懣。を。散

さんごふこの時あり。事成らば娘さるを賜んとまぐ宣はさる仰ふ有り。此の事あり。命由絶く惜ふと適為課せゆんと真一を不諾ひく。伯母の前、大々さる。さうとらん。小女が折し腰に帯る刃ハ切味公りとす。此ハ口を。父通作大人護身刀小せようとき。こら小賜る短刀あり。桐一文字と唱へ。鏡刀さればその徳あるん。これを汝小貸づれぞ。信乃より。汝生れハ認る。疑ふと人の事ぬ。小これれり。立後といひ。けり。邊へ。の囊の初とれ。この短刀を授けり。主人夫婦の謀る所か。のどく。と死ハ和君と出遣り。あまを偏亡んとす。小あり。この桐一文字ハ和君の祖父匠作の像見よ。そ。こ。人。と。さ。い。よ。これバ。信乃ハ左右の。受。つ。と。見。額。藏。が。ほ。り。小。置。く。嘆。息。一。祖。父。ハ。忠。義。の。武。士。と。そ。の。女。児。も。こ。が。伯。母。ハ。あ。ま。か。ま。で。腹。死。せ。り。二。親。の。あ。れ。後。ハ。叔。伯。

母小あり。憑りたぬ。あま。こ。人。ハ。こ。が。刃。ハ。こ。と。と。表。裏。さ。り。仇。の。家。小。刃。を。置。と。も。か。ま。ぐ。あ。ま。移。り。謀。る。ん。や。さ。ら。け。め。ま。ぐ。恙。さ。れ。ハ。皆。尾。小。刃。の。賜。り。こ。が。父。未。期。の。教。訓。こ。が。奴。夫。婦。漸。志。成。改。め。く。実。小。汝。を。憐。ま。小。汝。亦。誠。心。り。仕。へ。養。育。の。恩。小。報。へ。よ。又。その。害。心。已。む。こ。ら。遂。に。御。不。小。術。あ。く。ハ。宝。刀。を。抱。え。く。と。中。去。れ。五。年。七。年。養。へ。る。と。も。汝。ハ。大。塚。氏。の。嫡。孫。り。墓。六。が。職。禄。ハ。汝。が。祖。父。の。賜。る。その。禄。より。て。人。と。あ。る。と。も。伯。母。夫。の。恩。ハ。あ。ま。と。縦。報。り。去。ま。ふ。と。く。そ。は。成。不。義。と。い。ひ。へ。ま。ま。と。の。理。義。を。あ。ま。べ。と。の。り。と。一。の。今。小。符。合。を。先。見。か。く。ま。ぐ。灼。然。さ。る。大。人。ハ。九。夫。と。あ。ま。さ。る。ま。け。り。九。年。の。同。居。ハ。衣。食。之。く。野。指。の。田。園。を。横。領。せ。り。と。こ。が。刃。ハ。帯。る。物。の。ま。け。を。彼。人。の。禄。を。食。う。と。あ。ま。今。ま。と。れ。ら。の。身。退。く。は。潔。一。且。この。宝。刀。幸。小。護。て。失。ふ。

手を後何をう歎死誰を恨人天運去小循環く。青雲の志をゆめべき
 時節到来せり。其其ハ大川ぬ。共ニ許我へ糸を又あん方と日と力を勤
 しく。彼君を佐るが。西管領中討る不足ぶ。豈もやと額と合く。
 ちのびく小説勸ま。額藏仲々沈吟。和君のうハ勿論之某ハある。く
 是裏小母の終馬小莊官の残忍ある。一を恨むべ。といハ當時某黄童
 ちとバ勢ひのゆもせんま。ちく。其家の小厮にせんま。遂に今日小
 到れり。ちとど。一碗の糧一領の衣の外。定めたる給銀。ちけ。その恩
 義ハ薄く。や恩義ハ高くと。その家の糧をめ。人とありて。主
 後あり。非義非道。大與せ。主の密吏を兼引る。洩く。和君と
 共ニ走。く。亦不義の奴。か。大丈夫と。和君ハ許
 我へ赴。人某ハ。の曉。袂を分。大塚へ。んぬ。を。ハ。西件

の利あり。某非道の主人。又負を。又濱路との心操。昨夕。竊聞く。
 感。ち。所。怜。惻。の。婦。人。の。情。通。不。慮。の。行。心。某。竊。小。これ。を
 資。為。謀。ん。如此。と。死。ハ。和。君。が。人。節。婦。を。棄。る。の。悪。評。る。ん。
 斯。討。小。謀。後。某。明。地。身。の。暇。を。賜。主。家。と。辞。許。我。小。系
 ら。今。共。侶。走。る。小。勝。ま。亦。可。ら。と。密。語。信。乃。ハ。頻。小。感。佩。説
 得。理。有。然。ち。ん。ん。方。ハ。これ。を。敷。む。く。還。ら。必。禍。あ。ん。と。詰。め。バ
 莞。尔。と。笑。これ。ら。の。心。中。を。れ。某。ハ。足。小。少。許。の。傷。け。く。浅。瘡。を
 負。る。如。く。小。せ。ま。く。の。い。べ。れ。ハ。大。塚。殿。を。敷。ん。と。せ。小。敢。た。く。と。殺
 立。ら。と。く。替。ゆる。の。と。斯。瘡。を。負。ひ。ぬ。と。欺。ふ。あ。下。夫。婦。中。に。さ。う
 ら。ん。只。某。小。任。せ。と。他。の。中。た。く。説。示。せ。信。乃。ハ。ま。く。感。謝。小。堪。ま。り。や
 偽。瘡。ち。ま。と。く。ん。小。傷。さ。せん。心。を。限。り。ま。と。推。辞。ハ。婦。人。の。仁。と

せん人教小博中。との小額藏款びつ。密談既果。おのく衣を引被
た。霎時寝小就。よけり。

第廿六回

権を弄く墨宦督夕を促む
殺伐示して頑父再醜孤羞む

たも曉々の鯨音小教馬ささく。西人齊一起あつ。支度形の如く整へる。
いそろ族宿をせし。有鬻別の惜々れハ額藏ハ天の明果るまで信乃を
送ゆんとく。許我のうへ進んとく。信乃ハ額藏を送ゆんとく。江戸のうへ還
らんとく。仰慕と辞讓はる。東天をふけ。今ハ送ふよ。あつ。
そかや列松の蔭に立在額藏声を低う。和君許我へ赴れ。あつ。事大
く成就せん某嘗人又向小結城里見の諸大將ハ元来許我殿の御
方あると。各自國に在るより。只將足の勢ひ張るのみ。獨横堀史

在村ハ成氏朝臣の家宰あり。賞罰黜陟この人の隨意せむとのみとま。
と知る。ゆのいひたり。そのうへ小ころあつ。後と告れハ信乃ハうち点頭某由
そのるハ豫てより傳聞。彼如へ。由緒を述亡夫の遺志を披あ。この
宝刀を獻り用ひられ。又野水舟横り。或ハ左右のハ小阻。こ
或ハ權臣能を招。賄賂よ。人を用ひ。速ふ去。祖父の後を
いま仕へむ。ゆの人の明君ハ臣を擇く使ふと。今ハ世ハ臣も亦よろ。
君を擇へ。用ひ。身を主と欲さ。地許我殿の。限
へ。時宜ハ任せんと。額藏感激。現潔。言兼。
志氣ある。誰か。願ハ竊。消息。その進退と。せ
其由遠く。再會を期。信乃ハ左。笠。右。小
直。然。袂を分。盛暑。烈。愛顧。

送よ心緒述あまを竟小東西よ別とたり。安下某生再説墓六龜條ホハ既よ
 信乃を出し遣りて。あるもハ心を安くし。且共侶小目并ゆる小信乃ハ許我
 まぐ遣り著けむ。途みく額蔵が大なる結果人の額蔵が為損とく。
 返撃みせむとも彼一刀ハ贖物たるも許我敵へあるとも何る成るもい
 せむ。鹿忽の罪科脱れく。縛首を刎らるん。そのまも色かかもあれ。
 下みせむゆえより。生てふるべくもあらぬ。信乃がるハ後せむ。只便るハ
 濱路が病著之聘礼物を受くより。いまご幾日由歴さむも軍木ぬが
 密書りく。毎日小催促せむ。小既又信乃がとむるありてハ遅くして許さ
 づれよあむ。さく小濱路を慰め賺し。疾遣嫁とさふ小すさるのみ。と
 竊小商量さる。又五倍二が使札来れり。墓六ハ忙しく封皮を折
 らく。これを入る。ふきのうか。ぬ縁女の催促婚姻遅滞のよ。成體さ。

怒氣文面みあられ。と。ハ。ゆ。小。十二分の鬼胎を抱え。書翰を。龜條小
 指示。彼方さぬの性急さる。さ。意。成。知。さ。ふ。似。と。も。信。乃。を。出。し。遣。り
 といふ。とも。か。も。あ。ら。む。さ。る。べ。い。これ。ゆ。え。く。面。談。せ。ん。例。の。袴。を。出。し。入。り。て
 い。で。と。ひ。ひ。く。納。戸。の。く。小。赴。け。ハ。龜。條。ハ。先。よ。ま。衣。櫃。の。蓋。と。り。あ。ま。を。麻
 衣。袴。此。彼。と。引。か。り。つ。ら。ち。被。さ。む。墓。六。ハ。帶。引。結。ひ。く。袴。を。穿。刀。を。引
 提。外。面。よ。ま。出。し。五。倍。二。が。使。を。勞。ひ。あ。ん。答。ハ。某。が。罷。出。く。ま。る。べ。い。誘
 多。と。先。小。立。く。軍。木。が。宿。所。へ。赴。け。け。り。さ。所。程。よ。龜。條。へ。さ。か。ん。か。や
 あ。ら。ん。と。く。い。ひ。ひ。せ。む。か。も。さ。ぬ。心。か。ら。ま。ふ。り。と。く。消。し。か。ひ。さ。る。夏。の。日。れ。傾。く
 ま。ぐ。小。還。ら。ぬ。夫。を。い。つ。め。く。と。待。じ。び。く。うち。仰。ぐ。天。よ。夕。立。の。外。へ。降。け。ん。雲
 霄。く。横。よ。ま。と。日。の。影。見。ん。遺。嫁。よ。思。む。申。の。時。生。膽。乾。く。あ。ら。ね。ど。も
 し。そ。く。還。ら。墓。六。は。汗。は。塵。埃。を。除。き。く。背。門。より。の。つ。を。龜。條。ハ。と。く。見。て

軀く出迎へるとてやかくハ邊かり一家小どろどろ堪がた炎暑者さしと推
 量らる彼方の首尾ハいふそやと問ハ墓六微笑く彼知の一歳ハ甚妙そハ
 緩き小譚るべしと熱いと帯解捨く汗の麻衣脱更々端居をまれば擔
 迫た妻ハ團扇をとり揚ぐ背のうさふ立かりあぐを墓六引へつと龜條
 措ね殊更は件の一歳を怠れとスス安然とくハとくをせやんやあん
 身小軟せん暑小くは煤灼許趣た今今朝稍信乃を遠離する夢ての
 苦心を密語く且濱路が病著さむちもあく告いふ軍本ぬは果くか
 れハ共は後かき又新婦人の病著ハ重かあるるとも休ひえを婚姻の遅速ハ
 こが一存不定めく敷上殿は告ぐくハ且くさくは俟めちよといて来んと會
 釋く一僕を招く出くゆたぬかく俟とる程は大約一晌あまりあり軍本ぬ
 かり来るとそりあ車事の趣巨細は敷上殿は告いふ彼人軟び大くとなすと

新婦人ハ病著小臥りとも昨今のうと竹けハ風ひたふあふんぞん然ふ
 疾迎りく医療者病等困る皆がまろ湯液を勸んこと即功を奏る
 の方ありあふあども主君在城まろひハいまごこの婚姻の願状とまら
 らま且ごが父身まろりていまご暮月をさされハ晴る婚姻ハ憚りあると
 首略を宗とく潜かあるをよいととる小明日ハ真小黃道吉日えと塔入を
 相兼く望の宵亥中の比及よ日且社官の宿所は赴た竊は新婦人と迎ら
 下かて日を歴く皆縁の免許を請とも遅れはあくと此俗はゆふ客
 分の新婦るとは衣裳調度るとハ當坐當要の物成の羽子の黄昏小あ
 らるべこの趣疾待へくさるるゆさくせと叮嚀小示さくりハ
 の宵小故障あふ独和敷の人のさくを伐柯したる某えは腹を切るより
 外へりかきハ当晚の勸盃ハ首略小後と新婦人を乗ける轎子ハ形の如く

準備し。時刻を違へ。へんきと。いふ。推辞。仰。け。多。う。の。ひ。ぬ。さ。び。あ。ま。
 里。火。急。る。濱。路。が。そ。ま。ま。ぐ。お。て。え。た。や。量。々。い。へ。装。ひ。も。せ。ば。化粧。も。
 厭。ひ。ま。ま。と。ま。ぐ。か。も。か。も。仕。と。ん。と。美。引。と。退。出。り。今。成。濱。路。が。迷。ひ。よ。
 志。あ。く。ゆ。と。と。り。福。轉。と。禍。一。家。よ。及。ぐ。べ。女。々。ぬ。ハ。只。こ。の。と。あ。ん。身。
 目。彼。妙。い。も。え。く。あ。ら。て。見。え。と。り。バ。龜。條。々。ち。点。既。莊。官。の。女。見。で。ゆ。
 陣。代。敷。を。替。ふ。ま。ま。は。綺。羅。も。調。度。も。分。よ。起。る。物。の。波。女。の。ま。か。ん。
 と。豫。々。さ。び。こ。も。亦。曾。福。病。ぐ。信。乃。が。信。乃。の。性。急。ぐ。本。後。の。没。と。
 ぬ。よ。ひ。も。今。今。今。今。濱。路。が。納。め。た。か。の。形。こ。ん。が。賺。く。
 る。成。ら。ぬ。あ。ん。身。亦。云。云。小。威。一。身。と。耳。語。バ。墓。六。の。瓜。實。果。は。そ。の。ひ。
 れ。も。物。も。あ。り。と。く。ゆ。た。秘。と。い。そ。が。八。龜。條。へ。さ。る。果。く。濱。路。が。臥。房。へ。
 赴。け。り。さ。信。乃。濱。路。ハ。信。乃。が。る。を。の。こ。ハ。胸。は。結。き。臥。房。が。り。小。

夏の日も。日。が。身。ひ。と。の。秋。の。暮。心。悲。しく。も。蟬。の。鳴。音。立。限。る。腰。屏。風。
 臥。く。又。起。る。又。起。る。要。時。小。横。ゆ。め。れ。て。を。り。浩。如。は。龜。條。を。障。子。を。
 さ。ら。と。引。開。く。濱。路。が。ほ。と。り。は。進。む。より。土。用。さ。ら。何。る。ぞ。斯。坐。龍。て。
 た。ま。お。心。つ。れ。る。さ。め。の。と。や。と。い。ひ。顔。を。さ。歌。死。濱。路。ハ。そ。と。と。え。
 ち。よ。ま。食。る。ハ。い。ふ。ま。ま。一。秋。好。し。れ。お。あ。は。何。も。ま。進。む。せん。生。平。
 ぬ。嗜。ぬ。酒。も。か。る。折。は。某。は。信。乃。の。氣。成。深。中。は。志。も。る。と。や。信。乃。が。起。
 行。か。ら。ら。ひ。く。こ。の。三。四。日。の。事。の。ま。た。は。疲。勞。今。朝。ハ。い。た。と。ま。起。る。
 ち。と。い。ひ。小。頭。あ。が。ぬ。あ。ん。身。の。病。者。さ。ら。休。る。隙。も。あ。り。あ。れ。も。嚮。高。よ。
 ぬ。湯。液。の。效。の。あ。ら。と。く。飲。大。さ。る。色。ゆ。り。か。て。ハ。耳。六。瘡。を。
 ぬ。ん。て。の。病。類。ハ。そ。の。心。ゆ。り。度。も。多。かり。吾。倚。ハ。醫。師。も。松。花。そ。の。
 病。症。を。猜。たり。そ。の。人。小。あ。ら。ぬ。信。乃。が。店。は。あ。り。さ。ら。た。の。ん。さ。て。ハ。

親のかみもあら片あひひゆてそ侍るるは返り雑かりし時ひひ名づけしものたふ
 あは後どのいふせん渠も親の横死を恨む。年来大人を。墓六を。仇と寛へバ。
 心ふ刃を磨ぐと久し。その大悪心漸覺て人もとさくひみ隨小里の衆人ふ
 疎れく大塚の住ひ叶ひを許我へあると偽りく。實ハ逐電あつちあり。さうよ
 より前夜は神宮河なる漁舟竊く大人を突落し。その刃も續く跳
 入王推沈んとしつととも。楫取の貨小よりく。大人ハ恙ありしとぞ。よハ鄙言ふ
 り行かひの駄賃とせん小あらんむらん母がひんと虚言妙疑くハ額流が
 遷る渠は回身骨肉の伯母恩高れ伯母夫より弓を奪く。さ鳥嗚呼の癖
 者がやと一宵も俱寐せぬ。その名むらうとの妻をくゆひふくくあふべれ虎
 狼よりおそくは偽夫は操を立病煩く二親は苦勞を被るを負女と
 いんや。あの道理を辨く。疾むひ絶えり。彼畜生よハ百倍んあぐ乾。

美男子小遣嫁せん。おん刃よりあつと告さるし。その婿かひハ別人あまのいぬ
 月か宿せ陣代は殿上宮六ぬ。本日おん刃ハ懸想し。相忘りかぬ男を
 厭つと枉くおん刃を取んとく。媒妁をりくいつせのひれ。その媒妁も厭く。さ
 属役の軍木ぬえ。その刃上の軽重ハ彼挑灯と洪鐘あるとも。熟淡き且ハ
 一家の僥倖より年波の二親まぐ。浮くあがらん刃が孝約否とのりく。さぢ
 ちと後ども。参りハ昔人氣質まで。おん刃の胸を揣る。憎しと思くと信乃も
 どり。此彼は遠慮し。再三辞退えども。信乃が逐電あつちあり。さや告りめ
 ありく軍木ぬより弥の催促今ハ股路由り。已と成るまで引足ハ婚姻ハ
 近くあらん。さうよ就くもその病著をく瘥りく二親の心成休へさす。さ
 今の世よりく之才見ても慾をさすぬはるれのを表心く後悔をあらめ。さ
 巧よりしるれハ濱路ハ忽地膽はまき。堪きやよとは沈む胸を板屋の玉霰散

碎るる小降そぐ。涙の雨小乾ぬ袖の朽る朽よが良人よ何濡衣を被せと命
 つれいづく釋んと竹又糸の弱るよつる成激しく。やうやく小頭を。槿定小ひひけ由
 られ仇結ひする婚縁ハさるるゆくくゆり。とぞよりまうさる親のる。どハぬふ
 似く不孝よふ人の子の道るさげと叱せぬか致さるゆきと。そ成推碎さか
 親のこめ子さるのろよはりるん犬塚ゆをあ。ぶぬ宮ふさるる舊恨心と忘れ
 多ぬぬん疑ひの解ぬさ心ひ小侍る。十年小迫く彼人と。むら宿り小生三月一
 かど只二が小疎略る。進止ひぬぬの悪心あるとハんぬゆきと。却ら宿り小侍り
 ぬる。こらふかあさぬ彼人の中心を。家小あさぬ人がありりりりあさ。あさ
 そふ怨あるめ。謔言小侍るめり。さる人あさる二このぬさる小稱さとして追遣ひ
 ろふとも。一早結び一縁一あさ。こらふがぬふ夫とりぬぬの犬塚ゆの外ふり。又
 彼人の故あり。よや逐電さるるとも。離別状を多るさ。他一夫小見えあハ。

そ。其も密夫小侍るまや。こは淫婦よ侍るまや。譬ハ親の仰えとも夫婦の道ハ殊
 さる小重れがう人の小夜衣つま成かさる推がぬよ不茂の富さ成樂ふべ死
 又彼人ま名のとめく。ま。俱寐せぬ夫ハ婚姻せ終ばと定ハまれば。初こらハを
 妻一職禄をさ讓らんと定ハせ。よハ親のぬさる一ッ小侍る。里の衆人
 媒妁一。證據ハ夥あるふあさ。や。かれハのま。婚姻せぬとも。夫婦る。と誰
 ふりん犬塚ゆが離別状を。ゆら。處与一ぬ。でも親の仰ぬ後ひ。許
 とせぬ人と理を推。いも怜悧くひと死。雄く。死言葉の露の玉小親の
 威光さけおさ。電條ハ一句ゆ。腹うち立。く。せん。さ。か。げ。よ
 見え。外画は竊聞さる。墓六ハ衝と進。入。て妻のほり小磯と坐。一。潜
 然と。鼻うちか。電條何ゆ定ふ。や。濱路親。恥。れ。ぬ。身。が。自。實。彼。知
 めく。つ。ぬ。ぬ。熱。さ。る。の。い。出。さ。る。母。の。さ。る。これゆ亦後悔さる小立さる。老

て下ろす。怨う。因成ゆ美をもちし心。あんがみ。小道まぬ。婚日縁を
 結び。情由え。ね。恨もせん。世の常言。小親の心を。子ハ。ち。と。の。成。成。
 ち。総角より。養。月。せ。信乃。真の。人。何。煩。惱。を。並。度。き。反。好。と。
 名。ひ。夫。と。憑。む。あ。ん。が。迷。ひ。親。女。才。が。あ。ん。が。殺。渠。が。る。ハ。恨。む。甲。非。支。あ。い。
 既。信。乃。が。と。と。む。ま。て。陣。代。殿。の。懇。望。を。推。辞。小。難。れ。詰。の。縁。談。長。死。
 物。必。纏。巨。樹。の。蔭。必。覆。る。不。口。と。い。ふ。才。む。ち。ち。ぐ。忽。地。妻。子。小。
 崇。あ。ん。あ。ん。が。心。ハ。ち。終。も。當。坐。逃。れ。小。兼。引。ハ。け。の。亭。午。の。る。る。に。
 聘。礼。物。を。そ。や。贈。ら。且。容。分。く。迎。と。と。ん。と。本。日。を。促。を。縁。家。の。性。急。あ。ん。
 才。が。心。む。と。め。今。小。至。く。変。改。さ。る。と。も。そ。成。そ。が。小。許。され。ん。や。背。殿。ハ。
 陣。代。り。媒。約。ハ。属。役。一。と。び。怒。ぶ。この。一。郎。を。空。巢。よ。せん。也。易。く。べ。六。
 十。小。及。び。一。家。の。滅。亡。も。命。運。よ。あ。ん。と。妻。を。殺。され。子。を。殺。され。く。

日。亦。死。一。ハ。竟。小。益。あ。一。さ。覚。期。を。究。め。り。聘。礼。物。を。受。納。め。一。麓。忽。と。
 い。と。く。一。艘。腹。切。る。外。又。術。も。有。南。五。河。孫。陀。佛。と。唱。へ。申。あ。ん。が。刃。を。是。
 一。と。引。振。く。腹。へ。突。立。ん。と。たり。一。ハ。龜。條。ハ。吐。嗟。と。叫。く。肘。小。携。り。禁。れ。濱。路。申。
 慌。忙。ひ。あ。ん。情。ハ。さ。る。且。この。刃。を。放。り。頭。を。ち。掉。す。い。ち。放。さ。ぬ。
 殺。せ。と。狂。れ。か。う。く。龜。條。が。抱。縮。め。く。傷。を。見。え。り。濱。路。ハ。灸。を。押。さ。ぬ。
 一。と。一。と。ハ。事。果。を。親。を。殺。さ。ぬ。也。あ。ん。が。心。む。と。あ。ん。が。ん。甘。苦。む。る。
 一。と。孝。弟。軟。鈍。一。や。と。叱。ら。ま。玉。を。涙。を。ぬ。り。拂。ひ。や。貞。女。と。い。は。る。と。こ。こ。
 又。唯。不。孝。の。子。と。あ。ん。が。い。づ。ま。入。る。道。ハ。缺。る。仰。小。後。ひ。侍。る。べ。一。と。い。ハ。龜。條。
 点。眼。賢。れ。め。の。も。信。乃。が。る。ハ。必。ひ。絶。く。殿。上。殿。へ。と。う。け。引。け。り。刃。を。納。め。
 一。と。い。ハ。小。墓。六。卷。は。あ。ん。が。濱。路。ハ。使。り。死。と。る。あ。ん。が。信。乃。が。今。死。ん。
 後。小。変。改。せ。ん。と。あ。ん。が。禁。め。と。殺。せ。と。期。を。推。せ。ハ。そ。ハ。物。体。を。死。ち。疑。ひ。仰。よ。



自 殺 自 殺 自 殺
 示 六 六 六 六 六 六
 賺 六 六 六 六 六 六
 と 六 六 六 六 六 六

飛 ぶ

八 大 傳 三 朝 卷 三

山 青 堂 藏

八 大 傳 三 朝 卷 三

廿 五

山 青 堂 藏

後ひひるべし。といふ由涙より。鼻云る声を飲て。伏沈む。志をぬり。と。墓六の合
 笑つ。龜條は目を注し。刃を納め。披れ。襪を合。と。浮雲。と。や。と。龜條は
 夫のほり。成。立。て。泣。沈。ま。る。濱。路。が。背。を。搔。拊。ら。又。湯。劑。を。勸。め。り。子
 少も。求。め。の。あり。自。は。不。回。語。中。阿。諛。の。言。ま。巧。は。慰。め。け。り。か。く。二。親。送。代。は
 通。宵。首。病。を。り。一。く。死。ん。と。思。ひ。決。め。り。濱。路。は。絶。て。便。り。を。ゆ。ぎ。も。ち。護
 ら。ま。り。夜。を。曉。せ。ば。や。十九。日。ふ。る。り。小。たり。され。ば。今。宵。八。臂。殿。の。詰。本。あ。か。と
 幼。多。主。の。蔭。詰。い。ひ。誇。ら。う。と。奴。婢。が。口。あ。の。閉。ら。ぬ。戸。障。子。の。拭。掃。除。釘。よ
 紙。よ。と。罵。り。く。粘。を。搦。音。鉄。槌。の。打。が。響。音。く。と。譬。言。違。つ。ど。濱。路。は。や。や。洩。ゆ。て
 こ。ハ。浅。き。や。今。宵。の。る。を。こ。ら。ふ。あ。は。れ。二。親。の。隠。し。ぬ。ハ。出。援。て。その。替。烟。の。不。皿。と
 結。せ。ん。為。る。べ。し。と。も。か。く。も。存。命。と。仇。一。夫。は。伴。は。し。と。豫。て。い。へ。は。る。く。は
 う。ち。も。騒。が。む。け。ぬ。稍。快。れ。面。色。し。と。素。と。一。髮。兵。を。搔。拊。つ。臥。房。の。内。は。結。ひ

直も。髪。も。この。世。別。の。櫛。の。齒。を。挽。く。如。け。家。内。の。奔。走。の。黄。昏。か。ら。り。遺。を。
 濱。路。が。調。度。の。そ。り。ち。と。る。或。ハ。饗。膳。酒。食。の。儲。は。主。後。暇。る。れ。お。く。龜。條。は。ど
 ろ。小。濱。路。が。臥。房。小。立。よ。る。と。そ。の。安。不。成。回。慰。め。み。ぐ。う。結。髪。せ。し。を。見。ん。と。
 心。の。中。竊。は。教。ひ。原。来。今。宵。の。臂。入。を。や。ご。ま。せ。秘。ど。も。洩。ゆ。く。渠。あ。る。ま。ち
 ま。る。ゆ。や。あ。ん。ん。が。め。の。辞。は。似。げ。る。れ。八。定。は。少。女。ご。ろ。ご。う。か。て。ま。い。ひ。く
 後。か。ま。し。と。ど。ハ。夫。小。密。語。ぬ。を。墓。六。も。亦。飲。ひ。ら。駈。く。臥。房。よ。い。お。れて。ん。り。小
 現。と。り。揚。し。束。髪。は。西。絶。が。病。る。凡。情。あり。化。粧。ぬ。夏。の。富。士。額。ハ。ご。子。あ。が
 ら。小。見。あ。げ。り。三。圍。一。の。臂。入。を。ま。る。と。り。と。も。その。期。ま。く。告。む。も。あ。ん。と。深
 念。ら。他。一。る。紛。し。く。又。外。面。走。り。去。彼。ハ。そ。と。せ。よ。你。ハ。これ。甚。よ。と。罵。り。ら。又。焦
 燥。人。掃。く。け。く。遣。使。の。眼。口。は。暇。あ。り。け。し。

里見八犬傳第三輯卷之三 終

